

## 時間割

※令和3年度はクラス分けは行いません。

## 【選択】 ⑧家庭科の授業づくりと教材化の視点 〈板橋〉

月日	時限		タイトル	概要	担当者	講座形式	認定方法	持ち物・連絡事項
8/18 (水)	1限	9:00~10:30	食品の官能評価の理論と実際	食物の状態は、理化学的に測定することは可能であるが、「おいしさ」として測ることは難しい。しかし、官能評価により、「おいしさ」を判定することはできる。これらを正しく識別・評価することは、おいしい食物を作る基や食育にもつながると考える。そこで、食品の官能評価の理論と実際について講述し、次の実習へ繋げていきたい。	土屋京子	講義	郵送試験	特になし
	2限	10:40~12:10	食品の官能評価を取り入れた実習	「食品の官能評価の理論と実際」の講義を生かし、中学校教科書を中心とした、簡単な日常食1食分の献立を実習し、授業実践における食品の官能評価を取り入れた調理実習の指導方法について検討する。	加藤和子	演習	郵送試験	特になし
	3限	13:10~14:40	帽子的製作①	安価な衣料品(既製品)が手に入る時代ではあるが、日々の生活をより豊かにする工夫の一つとしてオリジナルの帽子を製作する。その製作を通し、布・接着芯の扱い方、洋裁用具の使い方、縫製方法を再確認すると共に、ものづくりの楽しさを実感する。	杉野公子	実習	製作作品 ・ 郵送試験	【準備するもの】 生地①(90cm幅以上×70cm、ソフトデニム、キャンパス等しっかりした生地で無地、帽子の生地にふさわしいもの)、 生地②(90cm幅以上×50cm、ブロード等の柄物、プリムの裏側用)、 ミシン糸(化繊糸、#60、商品名ではシャツペスパン、シルファイン等がある)、 洋裁用具(縫い針・玉ピン・ピンクッション・家庭用ボビン1個・小ばさみ・目打ち等)
	4限	14:50~16:20	帽子的製作②					
8/19 (木)	1限	9:00~10:30	食品の安全①	現代の我々を取り囲む食品事情をみると、非常に豊かで、溢れかえる状況にある。また、我々の食生活の中で食中毒を経験することは稀である。にも拘らず、国民(消費者)は食品に対する不安を拭いきれない。その原因は何なのか。食品の偽装問題などによる食品製造業者への不信感から不安につながっている面が多いのではないかと。今回、食品の安全と安心についてリスクという観点から考えてみたい。その中で、残留農薬、遺伝子組み換え食品、BSE、環境ホルモンといった問題について取り上げ、食品安全に関する正しい理解を深めたい。	佐藤吉朗	講義	郵送試験	特になし
	2限	10:40~12:10	食品の安全②					
	3限	13:10~14:40	乳児期の子どもと保育	乳児期の子どもの発達の特徴をふまえ、この時期に必要な保育者との情緒的なつながりを形成するための援助のあり方について学ぶ。また、乳児期の発育に適した遊具などを通して、健康で安全な保育環境のありかたについて考える。さらに、地域社会における子育て支援の現状と問題点に触れ、総合的に乳児をとりまく保育環境の重要性について考える。	堀 科	講義	郵送試験	特になし
	4限	14:50~16:20	日本の住民の変遷から今後の日本の社会や家族の在り方を考えてみる	日本の住居は大陸の影響を受けてきたが、自然との係わり方、生活様式、家族の在り方などによって、世界でも類を見ない独自の様式を生み出した。それらの様式は現代にも受け継がれているが、次第に一般的なものではなくなくなってきている。それらは、家族型の多様化、日本のエネルギー政策、IT化など、さまざまな問題との関係によって起こっている。それに伴い、日本人が生活の中で育んできた感性や美意識といったものにも変化を与えていると考えられる。そのような変化が日本の社会や家庭にどのような影響を与えるのか住居を通して考えてみる。	石田恭嗣	講義		特になし

時間割

※令和3年度はクラス分けは行いません。

【選択】 ⑧家庭科の授業づくりと教材化の視点 〈板橋〉

月日	時限		タイトル	概要	担当者	講座形式	認定方法	持ち物・連絡事項
8/20 (金)	1限	9:00~10:30	家族と共生社会	現代日本は少子高齢化から人口減少社会となっており、社会統計等から家族や生活の変化の現状を客観的に捉え、今後の予想とこれからの生活課題を見いだす。また、現代は多様な生き方が認められつつあるが、誰もが孤立せずに安定した生活を営むには、どのような家庭や地域、共生社会をつくっていけばよいか、諸外国の例をとりあげながら、家族と共生社会を考える。	平野順子	講義	郵送試験	特になし
	2限	10:40~12:10	幼児期の子どもと保育	幼児期の遊びに焦点を当てながら、この時期の子どもの発達の特徴をおさえると共に、遊びを通しての総合的な指導としての保育の実例をあげ、保育者の援助の内容とその方法について学ぶ。また、家庭科の授業としての実例(パワーポイントで実例をあげながら、幼児との連携・交流の実践指導のポイント、環境構成など)についても考える。	塚本美起子	講義		特になし
	3限	13:10~14:40	家庭科の授業づくり —トピック学習による教材開発と指導法—	現行教育課程における家庭科学習指導上の課題の一つとして、少ない授業時数の中で子どもがいかに意欲的に学習活動に取り組み、生活を総合的・科学的に認識することができるか、学習内容の量と学習活動の質が問われている。そこで、英国のトピック学習による家庭科の学びを通してその特徴を理解し、題材開発の実際を体験する。	青木幸子	講義・演習		【準備するもの】 所属学校の解説書 (小学校学習指導要領解説 家庭編 あるいは中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 あるいは高等学校学習指導要領解説 家庭編)及び現在使用している家庭科教科書
	4限	14:50~16:20	家庭科の授業づくり —トピック学習による教材開発と指導法—	開発された題材を基にグループワークと意見交換を行い、開発題材の実践化に向けて、学習内容の範囲とレベル、学習方法、評価など、子どもの学習意欲の喚起と実践的態度の育成など授業づくりの力量の向上を図るとともに、家庭科の独自性を生かしたカリキュラム編成への展望をもつ。				

※認定方法は「筆記試験」「実技考査」「口頭試験」「その他(試験方法を明記)」のように履修認定は試験により行う。

※試験は本人確認ができる形態で行う。

**\* 講習内容が変更になる場合もあります。ご了承ください。**